

令和7年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月2日実施)	総合評価（3月31日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	<p>①基礎学力の定着、思考力・判断力・表現力及び課題発見解決力の育成を目指した授業改善に取り組む。</p> <p>②生徒が主体となって課題を解決し、自律自走する学校行事運営や生徒会活動を目指す。</p>	<p>①生徒の学習習慣の定着及び基礎学力の向上を図る。組織的な授業改善の充実を図り、思考力・判断力・表現力の育成を図る。</p> <p>②各行事や生徒会活動について、生徒がより計画性をもって組織的に企画運営していけるよう、要所を押さえた支援を行う。</p>	<p>①学年、教科で連携し、授業や課題、実力アップ講習を通して、基礎学力を向上させる。互いの授業見学等を行うことにより、思考力・判断力・表現力の育成を達成できる授業づくりを追求する。</p> <p>②特に各行事の企画運営に向けたスケジューリングを丁寧な支援を通して、自律自走を促していく。</p>	<p>①生徒による授業評価の各設問の回答の平均値が4段階で3.25を上回った割合が80%以上になったか。</p> <p>②学校評価アンケートの学校行事等において「主体的に取り組むことができたか」の項目で、肯定評価80%以上を達成できたか。</p>	<p>①全教科の各設問の回答の平均値は、すべての設問で、3.25を上回った。なお、学力向上進学重点校の指標とされている設問「単元の学習の中で、議題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある」は3.36で最も高く、昨年度の3.32を上回った。</p> <p>②各行事等の目標達成に向けたスケジュールリングを丁寧な支援したことで、自律的な運営につながった。その結果、各学年ともに、90%前後の肯定評価が得られた。</p>	<p>①思考力・判断力・表現力の育成を掲げ、組織的に授業参観強化週間や研究授業を実施しているが、生徒によって基礎学力の定着度合いに差が生じている。組織的な授業づくりに加え、実力アップ講座の充実を図り、全体的な底上げを図りたい。</p> <p>②生徒主体で自律的に充実した学校行事運営および生徒会活動がなされるよう、引き続き組織的・計画的な支援を行う。</p>	<p>①授業についての生徒アンケート結果で、レーダーチャートが教科や項目に対してばらつきがなく、きれいな形になっている。今後も継続してほしい。</p> <p>②文化祭は来場者がとても多く、生徒たちによる装飾も凝っている。</p>	<p>①授業改善の取り組みの成果として、授業評価においてすべての項目で昨年を上回ることができた。一方で、実力アップ講座については、学年が上がるにつれて参加者が減少する傾向があり、より一層の充実を図りたい。</p> <p>②行事や生徒会活動の自律的な運営を適切に支えることができた。高評価を維持できるよう、支援の在り方を組織的に継承していく必要がある。</p>	<p>①実力アップ講座に関して、より積極的に生徒へ周知するとともに生徒のニーズに合った講座の設定や開催時間を検討し、生徒が参加しやすい環境を整える。</p> <p>②生徒が主体となって課題解決していくべき部分を明確にし、要所を押さえた指導を維持発展できるように、組織として継承していく。</p>
2	<p>①学校行事や部活動の運営を通し、他者と協働して物事に取り組む態度の涵養を図る。</p> <p>②教育相談体制の一層の充実を図り、生徒一人ひとりの心身の成長を支援する。</p>	<p>①学校行事では各クラスの企画等を通して多くの生徒が他者と協働して取り組みながら成長する機会が得られるよう枠組み等を工夫する。部活動では、引き続き、要所を押さえた指導を行う。</p> <p>②職員、SC、SSWが一体となって支援にあたることのできるよう組織的な相談体制を整える。</p>	<p>①必要に応じてLHR計画を更新しながら、可能な限りLHRの時間を有効に活用できるように配慮する。部活動では、引き続き顧問を中心に緩急をつけた指導を行う。</p> <p>②SC、SSWの勤務日を極力同日にし、教育相談コーディネーター等とより連携をとれる体制を整える。また、SC、SSWが対応可能な事案を職員へ周知し、積極的な活用を目指す。</p>	<p>①学校評価アンケート等の学校行事・部活動の取組状況や満足度で肯定評価80%以上を達成できたか。</p> <p>②学校評価アンケートの教育相談等に関する項目について、肯定評価80%以上を達成できたか。また、SC、SSWと効果的に連携することができたか。</p>	<p>①LHR計画の活用については、従前より意識されるようになった。行事担当及び学年、部活動顧問による要所を押さえた指導の結果、学校行事の充実、部活動の充実で、それぞれ全体として95%、90%を超える肯定評価が得られた。</p> <p>②「学校生活を充実させるための様々な支援体制があった」、「SC、SSWに相談しやすい体制であった」という項目の肯定的評価はそれぞれ83%、63%であった。SC、SSWの相談体制については前年度比約10%の向上となった。</p>	<p>①部活動や学校行事を通して、より多くの生徒が他者と協働して取り組みながら成長する機会が得られるよう、LHR計画に限らず枠組等を俯瞰し、模索試行していく。</p> <p>②アンケートのSC、SSWについての項目は、23%が「分からない」の回答であったが、利用したことがない生徒が回答したことによると考えられる。より気軽に相談しにいけるよう積極的に働きかけていく。</p>	<p>①他者と協働することは地域との連携にも繋がってくる。</p> <p>②気軽に相談しやすい体制づくりを心掛けてほしい。</p>	<p>①学校行事、部活動の高い満足度に加えて、地域との連携についても裾野が広がっている。地域連携については、貴重な教育機会と捉えつつも学習時間確保等とのバランスを考慮して計画する必要がある。</p> <p>②SC、SSWを活用し、カウンセリングの機会の増加に繋げることができた。背景には、サポートがなかったからだと思われる。来年度も引き続き、教育相談の充実に向けて、生活支援グループ以外の職員と連携し組織的な相談体制を整える。また、SSWの活用に向け、職員への周知を積極的に行う。</p>	<p>①地域との連携の教育的価値を踏まえつつ、生徒との連携についても裾野的な年間活動計画を立案していく。併せて引き続き、他者との協働を通じた成長を期した指導を志向していく。</p> <p>②各学年の教育相談コーディネーターを中心に、組織的な教育相談体制の強化を図る。また、「かドックと担任の協力があったからだと思われる。来年度も引き続き、教育相談の充実に向けて、生徒を積極的にSCやSSWの面談に繋げていく。職員に対してもSSWが対応できる事案を積極的に紹介し、SC、SSWのより効果的な活用を検討する。</p>

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月2日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①高い進路希望実現に向け、生徒がグローバルな視点を持って将来を設計できるよう、また、自らのキャリア発達を意識できるよう、3年間を見通した進路指導の充実を図る。 ②「科学と文化I・II」における探究活動と、ディベート活動を軸としたグローバル教育を、カリキュラムマネジメントの中核に据え、次代を担う人材に必要な資質・能力の育成を目指す。	①生徒の高い進路希望の実現を目指すため、進路指導の充実を図る。 ②「科学と文化I」と「科学と文化II」の“学びの繋がり”の強化をとおして探究の深化を図るとともに、研究倫理教育の充実に取り組み。また、校内外のグローバル研修や英語によるディベート大会等の充実を図る。	①3年間を見通した「進路指導プログラム」に確実に取り組む。また、大学入試の変化について情報を収集し、生徒、保護者、教職員への周知を図る。 ②「科学と文化I」の更なる充実を図るとともに、「科学と文化II」における“探究活動のルール”を見直す。また、校内外のグローバル研修や英語によるディベート大会は旅行者や国際委員と協力して、内容の充実を図る。	①生徒及び保護者の面談、出願指導検討会及び進路説明会が有効であったか。大学入学共通テスト得点状況は良好であったか。難関国立大学合格者数22名以上、国公立大学合格45%以上を達成できたか。 ②探究活動や課題研究の各種外部大会等に参加する生徒数が10名を超えているか。また、校内外のグローバル研修の振り返りにおいて、満足度が高い感想や回答が得られるか。	①進路指導への肯定評価は92.1%であった。難関国公立大現役合格者は23名(昨年20名)。国公立大学合格者は119名(昨年113名)で、合格率は38.1%であった。保護者、生徒に対して進路説明会にて丁寧な情報提供を行った。出願指導検討会を実施し、参加した教員間で現状を把握し、指導に活用できた。 ②科学と文化について、生徒アンケート結果で肯定評価が81.2%(2年生)だった。また、校外グローバル研修では満足した内容の振り返りがうかがえた。	①出願指導検討会に関わる範囲を広げ、学校全体として適切なアドバイスを行うよう改善する。また、次年度へは、今年度の可否結果を加えた資料を作成し、4月当初に職員間で共有し、生徒へ伝えていく。57期生の進路状況は結果を待つところだが、引き続き生徒の高い進路希望を引き出し支える指導を進める。 ②探究活動では校外発表者を増やしていくために、案内を含めて引き続き指導していく。また、校内グローバル研修の参加人数が少なかったため、内容の変更と時期を動かすことにした。	①大学入学共通テスト当日、校長をはじめ、3学年の先生方が応援に来ていた。保護者も子どもをサポートできる場面があれば協力したい。 ②生徒も教員も疲れないように、量ではなくて質を高めてほしい。	①生徒・保護者に対して、進路指導検討会を踏まえた面談や進路説明会を通じて有効な指導を行うことができた。57期生の難関国立大学合格者数23名となり、目標を達成することができた。国公立大学合格者数139名(44.6%)となり、わずかに目標には届かなかった。 ②アンケート結果は高い数値だった一方で、現状では校内の発表で留まっている。校外発表者が増えるように要項やポスターを掲示する等、引き続き案内を強化する。	①これまでの成果を踏まえて進路指導を実践することで、継続的に高い進路実績をあげることができた。また、グループ担当だけでなく学校として全職員がミスなく適切な進路指導に取り組む体制を充実させる。 ②今年度まで探究活動推進チームで取り組んでいたが、来年度からは業務が研究・広報グループに移行されるので、全体的に情報共有がしやすくなる。本校の学びの柱として質を高めていく。
4	地域への活動	①生徒が活動する様子が伝わる広報活動を目指し、本校の魅力や特色を積極的に発信する広報活動を展開する。 ②保護者や地域、大学等外部機関、行政機関等との協働連携を促進し、本校教育力の向上を図る。	①本校の教育活動について、中学生や保護者、地域の方に向けて、より見やすくかつ迅速な情報発信に取り組む。 ②保護者や地域、大学等外部機関、行政機関等との協働連携を促進し、教育活動の充実を図る。	①生徒の活動の様子をより詳しくわかるように説明文だけでなく写真も掲載し、期間を空けないように発信する。また、学校説明会等の予定も早めに告知する。 ②授業や学校行事、キャリアアップ講座等において、行政機関、大学研究機関、地域、民間等と連携した教育活動の充実を図る。	①学校説明会等におけるアンケートで、ホームページから適切に情報を伝えているという肯定評価90%以上を達成できたか。 ②授業や学校行事、キャリアアップ講座等における講師や地域の活用状況や、学校評価アンケートの肯定評価が80%以上を達成できたか。	①学校説明会で行ったアンケートで、ホームページの情報についての肯定評価が83.9%、役に立ったと回答した肯定評価が88.5%だった。学校の情報を十分に発信することができた。 ②キャリアアップ講座をはじめ、進路に関する東大 in 柏陽、科学大 in 柏陽を実施した。また、キャリア教育に対する学校評価アンケートの肯定評価は88.5%だった。	①学校行事については写真を入れて期間を置かず更新したい。また、今後は今まで載せていない行事や授業の場面も発信していきたい。 ②キャリアアップ講座の受講について、人数が少ない講座がある。より魅力的な講座の設定、周知方法を検討していく。	①情報発信をこれからも続けて、柏陽高校の取組や行事を紹介してほしい。 ②地域との協働についてももう少し明文化してほしい。栄区からもっと柏陽高校に入学してほしい。	①中学生や保護者が気になる情報を発信できた一方で、写真やコンテンツを増やす必要がある。見て活動の様子がわかるページを更新する。 ②進路や教養という観点でのキャリアアップは十分にできた。地域と根差しているので明文化する。	①日々の授業やちょっとしたイベント等も更新できるとよい。日を空けないように注意する。 ②学校行事や部活動派遣等を通して、地域交流を活発にしていく。本校側から地域に対しての要望等もあれば加えて連携していきたい。
5	学校管理 学校運営	①教育環境の変化に迅速に対応し、前向きに課題に取り組む雰囲気醸成し、魅力と活気ある学校づくりに取り組む。 ②各種会議を計画的に実施し、効率的な学校運営に取り組むとともに、安全安心な教育環境を整備する。	①定期的な研修会等により、職員間の信頼関係を高め、課題に前向きに取り組む魅力と活気ある学校づくりに取り組む。 ②ICTの利活用を推進するとともに、円滑で効率的な学校運営に取り組む、安全安心な教育環境を図る。	①職員同士が尊重し合える職場を目指すために、人権研修会および不祥事防止研修会を実施する。職員間の情報共有を積極的に推進する。 ②ICTの利活用を推進し、校務の効率化を図るとともに、防災研修会など地域と連携した防災対策を進める。	①職員人権研修会の取組状況等による検証はできているか。職員間の報告・連絡・相談を励行しているか。 ②ICTの利活用により、業務の効率化を図れたか。防災訓練の実施状況等による検証はできているか。	①本校SSWによる職員向け人権研修会では、グループワークでの話し合いを実施し、職員間の情報共有等にも寄与することができた。また、定例職員会議日には、不祥事防止研修会も実施し、職員間での報告・連絡・相談体制の構築と活気ある職場組織にも貢献した。 ②電子黒板の導入に伴い、職員向け研修会を実施するとともに、職員間での情報共有も進めることができた。また、年度当初に計画した3回の防災訓練を着実に実施することができた。	①人権研修会におけるグループワーク等は、職員間の共通理解や同僚性を育む上でも有効であると考え、今後も取り入れていく。さらに、毎月実施される不祥事防止研修会を確実に実施していく。 ②電子黒板の導入や「すぐーる」の導入など、慣れない部分はあるが、業務の効率化を図るためにも、丁寧にICT活用策を検討していく。また、引き続き消防署だけでなく地元消防団の協力を得て、より効果的な防災訓練を実施する。	①AEDの研修等も継続して行ってほしい。 ②デジタル教材を使用するようにしてほしい。	①人権研修会を行うことで人権意識を高めるとともに、栄消防署の指導によるAED研修は人命第一の体制を取ることができている。さらに、不祥事防止研修会も引き続き実施していく。 ②電子黒板に関する情報提供等を実施することによって、比較的スムーズに導入に職員が慣れることができた。日進月歩のデジタル世界について、人材育成と情報提供をどのように進めていくかが常に課題である。	①防災研修をはじめとした栄消防署の指導を今後とも継続して仰いでいく。不祥事防止研修についても着実に丁寧に実施する。 ②デジタル教材については、各教科でどのような使用方法等があるかといった動向等を踏まえ対応していきたい。